

街道を歩く

東海道遠江・駿河（府中・・浜松・・白須賀一境。14 宿 100 余 km）

東海道 53 次は、日本橋から京三条までで、荷継ぎの品川宿—大津宿まで“53 宿”。（伏見—淀一枚方—守口を加えて 57 次ということもある）
このうち静岡県（伊豆、駿河、遠江）には 22 宿がある。（今回はそのうち 14 宿の街道）
慶長 6 年(1601)同時に置かれたのではなく、白須賀(同年)、岡部（翌年）、袋井（元和 2 年 (1616)）に置かれた。
沼津、府中、藤枝、掛川、浜松宿は城下町で規模も大きく、渡河管理の島田、金谷は比較的大きかったがその他の宿は規模が小さく経営が苦しかった。
宿には名主、年寄り、宿役人が置かれ、1、旅人に宿泊、休憩の提供。2、人馬の継立（一宿毎の継ぎ立てであった）。3、飛脚業務の役割があった。

1、で象徴的なのが本陣・脇本陣。勅使、宮、門跡、公家、大名、高家、旗本の休泊の責任を負った。門、玄関、書院を設けることができた（一般に許されたのは明治維新後）。一般の旅人は旅籠に泊まった。

本陣の主な収入は宿泊料。月 2-3 回の宿泊に 200 坪以上の建物の維持管理が大変で問屋、商家、農業など兼業もあった。寛永 3 年(1626)秀忠、家光の上洛、寛永 11 年(1634)の家光の上洛は 30 万人ともいわれる行列で街道筋の苦労は大変なものであった。寛永 12 年（1635）武家諸法度の改正により、参勤交代が制度化。また朝鮮通信使、琉球使節の通行でますます重要な役割となった。

時代が下り大名の財政圧迫による本陣利用の減少。文久 2 年(1862)には参勤交代の緩和（大名は 1 年が→3 年）により窮乏化は決定的となり明治 3 年（1870）民部省布告で本陣・脇本陣は廃止される。

旅籠にも大小いろいろあり、営業面からみると飯盛り女をおかない平旅籠、飯盛り旅籠、食事の付かない木賃宿（油紙宿）があった。

2、3 は問屋の業務であった。役人としては、名主（庄屋）が兼ねることが多く、人馬の指、休泊など一切の管理・事務。年寄(問屋の助役、帳付)。人足を割り当てる人足指、伝馬を割り当てる馬指、迎番などで構成されていた。公家、大名の通行となると宿場は諸役で戦場のようなものであったという。業務が多く、煩雑で、責任重くその割に収入が少なかったので本陣の世襲に比べると問屋を長く世襲した宿は少なかった。

飛脚業務には、継飛脚、7 里飛脚、町飛脚があり、継飛脚は幕府公用の品物、書状扱う飛脚。天候に左右されず急速でなければならない最重要で責任のある業務であった。7 里飛脚は大名が江戸と国許を連絡する専用飛脚。幕末、経費節減のため町飛脚に切り替える大名もあったという。庶民は町飛脚。江戸—京都間で一番早い継飛脚は 3 日。町飛脚は 6 日であった。

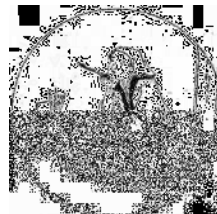
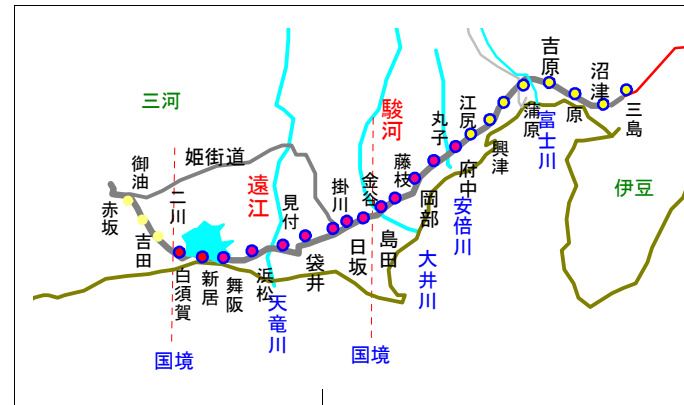
交通量の増大と共に宿の負担も増えたので助馬令（近隣の村から伝馬人足を徴発）が出され、寛永 15 年(1538)には各宿常備 36 人 36 疋が 110 人、100 疋となった。

寛文年間(1661-73)に定助（常に助馬）、大助（臨時の助馬）ができ、元禄 7 年（1694）には助郷制度が改革され“助郷帳”が下付された。

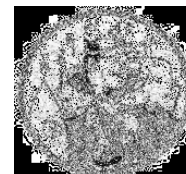
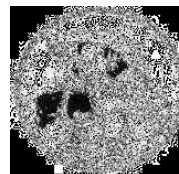
それでも宿の負担は重く、享保 10 年（1725）、すべて定助と再編強化されたが交通量増加対応できず、代助郷、増助郷、当分助郷など拡大していった。人馬でなく金納、負担をめぐって村争いも出てきた。伝馬、助郷制度は限界となっていた。大政奉還後、駅通司を設け宿駅制度を維持すべく、人馬定賃銭の改定、助郷の組み替えなどするが・・・。明治元年(1868)、宿駅の問屋が廃止され、伝馬所がおかれたが、明治 5 年(1872)には伝馬所や助郷制度が廃止、運輸業務は民営化。各宿駅で「陸運会社」が設立。同時に「陸運元会社」が設立される。（日本通運の前身）。明治 6 年（1873）飛脚制度廃止、全国一律料金の郵便制度。

目次

- | | |
|---------------------|-----------------|
| ①：府中(伝馬町)—手越—丸子 | ⑨：見付—長森—浜松・天竜川町 |
| ②：丸子—宇津/谷—岡部 | ⑩：天竜川町—連尺—若林 |
| ③：岡部—鬼島—藤枝（勝草橋） | ⑪：若林—篠原—舞阪（長池） |
| ④：藤枝—島田(大井神社) | ⑫：舞阪—新居（浜名） |
| ⑤：島田—金谷—小夜の中山峠 | ⑬：新居—白須賀・境 |
| ⑥：小夜の中山峠—日坂—掛川(紺屋町) | |
| ⑦：掛川—久津部 | |
| ⑧：久津部—袋井—見付 | |



十辺舎一九と[弥次・喜多]
“東海道中膝栗毛”より



H17/12—H18/11

あきやま ゆたか

H19 年 4 月

街道名物

府中：竹細工、紙子、お茶
安倍川：安倍川餅
丸子：とろろ汁
宇津/谷：十団子
岡部：十団子
藤枝：瀬戸の染飯、鮫細工
島田：朝顔饅頭、ぐみ
金谷：菜飯田楽
菊川：菜飯田楽
中山峠：子育てあめ
日坂：わらび餅・碁石
掛川：葛布、白酒、さし足袋
袋井：遠州風、火縄、花ゴザ
見付：蕎麦切、饅頭、浜納豆
浜松：花火、鯉鮒料理
舞阪：鰻、魚料理
新居：鰻蒲焼、浜名納豆
白須賀：柏餅

参考

桃花台中日文化センター“街道”を歩く”講座テキスト
静岡県の歴史散歩 株式会社山川出版社
静岡県の歴史 本田隆成他 株式会社山川出版社
東海道と袋井宿 袋井市教育委員会
「東海道さんさくマップ」 社団法人中部建設協会
今昔中山道独案内 今井金吾 日本交通公社
歴の道～東海道～ 豊橋市美術館
別冊歴史続本 図説 東海道歴史散歩 新人物往来社
東海歴史ウォーク 横山吉男 東京新聞出版局
東海道中膝栗毛(上) 十辺舎一九著 株式会社岩波書店
その他市町教育委員会発行史跡冊子、観光協会発行冊子、ガイドマップなど
桐一葉 現在日本文学大系(1)坪内逍遙 筑摩書房
最後の将軍 司馬遼太郎 文春文庫